第15号
平成17年1月

生涯学習の窓

富山大学生涯学習教育研究センターニュース

1.本学の公開講座に５３５人が参加

平成16年度は、36の公開講座が企画され、そのほとんどが終了しました。その結果、のべ535人(12月段階)もの市民が富大に集い、学んでいかれました。いくつか、受講生の感想を紹介します。

「先生方が親切で、環境もよく、今後もいろいろな講座に参加したいと思います。」(IT講座)

「富山の水についてとてもわかり易く講義して下さって楽しく聴きました。学問の深さに感じ入りました。」(理学試食会)

「皆で討論しあう形式はとても好感が持てて楽しかったです。もっと長くてもよかった。」(現代経営入門)

現在、17年度の公開講座の企画・検討が公開講座専門委員会で進められ、40講座程度がエントリーされています。今回は、各学部から複数の講座を企画すること、アンケート調査の結果から導かれた「学習ニーズ」に対応することが課題となっており、より多様な講座がうまれつつあります。

2.北陸６国立大学連携講座が実施されました

北陸の地域的特性を視野に入れた、個性的な公開講座を―このような発想から、北陸地区の６つの国立大学が連携して公開講座を実施することになりました(主催:北陸地区国立大学連合協議会)。住環境としての「地域」を見つめなおすことにつながる、意義深い取り組みということができます。

富山地区では、「北陸発のくらし:住民参加のまちづくり」と題し、去る平成16年10月30日(14:00～17:00)、富山駅前ＣｉＣビル３Ｆにおいて、３人の先生をお迎えして開講いたしました。

講演テーマは以下のとおりです。

- 「安心して暮らせるコミュニティづくり」
  (薬袋奈美子:福井大学工学部講師)
- 「ともに生きる都市づくりに向けて―交通環境のバリアフリー」
  (川上光彦:金沢大学工学部教授)
- 「生活にうるおいを与える乗り合い交通」
  (武山良三:高岡短期大学産業デザイン学科教授)

なお、本学からは、工学部の蓮覚寺聖一教授が「液相コーティングによる機能性酸化物被膜作製と起業」（金沢会場）、教育学部の吉見昌弘助教授が「子どもの生活と家庭教育」（福井会場）のタイトルで講演を担当していただきました。



3. 第6回親子フェスティバル・盛会に終了

一般市民の親子向けイベント・第6回親子フェスティバルが平成16年11月13(土)～14(日)日にかけて開催されました。主に教育学部の学生が企画・実施の中心となり、いろいろな遊びを通して大学の世界を一般市民に理解してもらう機会となっています。今年は7574人もの方が富山大学に足を運んでいただきました。今ではすっかり「地域の行事」として定着した観があります。

富山大学学長・瀧澤弘他によるテープカットの後、各会場に多くの方が参加し、賑わいを見せていました。中でも、定番となっている「超・巨大迷路」「ちびっ子めいろ」「おかしのアトリエ」は長蛇の列をなすなど従来どおりの盛況ぶりでした。

参加者に感想をたずねたところ、

> ○劇が上手で、子どもも真剣に見ていました
> ○内容が豊富なので、学生さんが増えたように思えた
> ○子どもが学生さんと出会えて、新鮮な感じがしました

というような声がありました。

なお、来年度10月より統合予定の富山医科薬科大学、高岡短期大学の学生の参加もあり、統合に先駆けた文化的交流の場面もあり、大学としても意義深いものがありました。今後とも、親子フェスティバルの発展に注目したいところです。



親子フェスティバルを支えた学生スタッフたち



4. 経営者大学の実施



今回で第３回目をむかえる「経営者大学」が開講されました。

今年は、前半３講で参加者自身の経営方法をめぐる問題を討議しあう「ゼミナール」形式を採用し、活発な意見交流をおこなったところに特色があります。長期不況が続くなか、実りのある企画となればと願わずにおれません。また、お忙しい中、講師を担当していただいた先生方には、大変お世話になりました。

	講　　師	テ　ー　マ
９月21日・25日	柳井　雅也(経済学部教授)	日本経済をどうみるか＋ゼミ
10月５日・９日	内田　康郎(経済学部助教授)	戦略策定に要求される視点＋ゼミ
10月19日・23日	水谷内徹也(経済学部教授)	会社はだれのものか＋ゼミ
11月９日	黒川　光流(人文学部講師)	社員のモチベーションとリーダーシップのあり方
11月25日	対馬　勝年(理学部教授)	地球環境の変化と地域・人類の未来

5. 富山県の社会教育・青年団活動について―県青年団協議会会長・経崎 勝さんに伺いました。

○青年団について

自分は、中・高校の先輩に「入れや」と言われ、18歳の時から青年団に入っています。青年団は、県、市町村、校下ごとに組織化されています。入る人はごく一部の人ですが、元気のいい人、ボランティアが好きな人、友だちがほしい人、さまざまです。

○活動のメリット

青年団に参加することのメリットとしては、まず出会いがあるということです。年齢の異なる青年どうしが、あまり堅苦しくなく話し合える。１～２歳の違いとは違って６～７歳も違うと、「先輩・後輩」の関係をこえて、幼馴染のような感じになります。

○主な活動

県青年団の主な行事としては、リーダー研修（６月）、立山の美化活動（８月）、未来フォーラム（９月）、青年議会（10～11月）、があげられます。県の青年団は、地域の行事を担当する青年団とは違います。市町村単位の青年団は、地域の行事が中心で、運動体としての性格があまり強くありません。

青年団活動の目的には、①生活環境をよくすること、②自分自身を高めること、にあります。地域の問題を発見し、改善に取り組んでみる、その中で自分自身が成長する。各種行事はそのためにあるといっても過言ではありません。だから、何かの取り組みをするときにはそのたんびに議論し、主旨を確認するようにしています。

○今後について

最近の気質として、「役員はいやだ」といってしばりの弱い組織が好まれます。気楽に参加できる、「この指とまれ」方式が必要です。ただ、この方法での参加は、社会教育としての「(社会問題などの)学び」が弱くなります。このほか、最近の青年たちは「なぜ?」という発想が弱いようにも思われます。ボランティア一つとっても、そこで何をしようというのか、参加するだけで満足しがちなところがあって、活動をめぐる議論が成り立たないことがあります。青年の間には、そういう課題があると思います。

今後は、企業の中で、青年団活動に参加することを評価する制度が大事だと思います。勤めをしながら青年団活動をするのは難しいのが現状ですので、企業の皆様の理解が得られればと思っております。

○富山大学について

富山大学の学生さんたちには、近い将来社会人になるにあたり、ぜひ、社会教育の必要性を認識してほしいと思います。その窓口として青年団があるので、ぜひ参加してほしいです。また、最近は若者の政治離れが進み、投票率も低い段階にとどまっています。富山大学には、若者の社会参加を促すとともに、市民に開かれた大学であってほしいですね。

(2004.11.25.於富山大学)

6. 会議報告(10月以降)

●平成16年度第1回生涯学習教育研究センター公開講座専門委員会

開催日時:10月19日(火)13:30～

議　　題:(1)平成15年度公開講座等の実施報告について
(2)平成16年度公開講座等の実施状況について
(3)平成17年度公開講座の実施計画について

●第26回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会

於:メルパルク沖縄(郵便貯金会館)

開催日時:平成16年11月26日(金)13:00～

協議事項:1 公開講座の今後の発展方向と課題(北海道大学)
2 学習ニーズの把握とその活用について(琉球大学)

●平成16年度第2回生涯学習教育研究センター公開講座専門委員会

開催日時:12月7日(火)13:30～

議　　題:(1)平成17年度公開講座等の実施計画について

発行:富山大学生涯学習教育研究センター／〒930-8555富山市五福3190／TEL076-445-6956／FAX076-445-6960